

レボゾの使用及び研修に関するドゥーラシップジャパンの考え方

私たちはレボゾが伝統的にメキシコと中南米の助産師によって使われ、その使い方や織り物自体が大切に継承されてきたと言われていることを理解します。そしてその地域の助産師や出産に関係する専門家たちの間で、神聖な存在とされてきたことも理解し、それを保存し継承してきた努力に多大な敬意を表します。

搾取された経験のないものには、長い歴史の中で人種、宗教、性別等によって理由なく差別され、搾取されてきた人々の苦悩ははかり知ることができません。自分が産まれる前から、住むところ、就く職業、受ける教育など一人の人間として持つ可能性を限られてしまっている。そのような差別や搾取は断じて許されるべきでないと思っています。

伝統的にレボゾを大切に伝えてきた人々の中で、自分たちの文化を理解する人以外、つまり歴史的に搾取する側にあった人がレボゾを使用・販売し、自分たちの利益にしていることに不快感を抱く人がいるのも理解します。私たちがレボゾの講習会を開き、邦訳本を出版していることによって、傷ついた思いをする方がいるとしたらお詫びします。

一方で、伝統の扉を開け、レボゾとその使用法を伝えることにより、レボゾとその歴史についてより広く理解が広まり、伝承者が増えることにつながると思っている人もいます。

ドゥーラシップジャパンで邦訳・販売している「広がるレボゾ(原題 The Rebozo Technique Unfolded)」の中で、メキシコの助産師Naoli Vinaverはこう序文で述べています「・・・そういったテクニックを新しい環境や状況に合わせて適応させてきた方法を私たちと共有してくれることがよくあります。このようにして、レボゾのもともとの使用法は世界中で共有されながら広がり、形を変えてきています。」また、Vinaver氏に師事した2人のオランダ人チャイルドバースエドゥケーターの著者たちは「このようにレボゾの有益な使い方についての知識を伝承する一助となれたことに、非常に熱い思いで喜びを感じています。」と書いています。

邦訳を出版する際に、ドゥーラシップ内でも伝統文化の搾取、ということについて話し合いました。この本の執筆者の一人で、私たちにレボゾの講習をして下さったThea Van Tuyl氏は、本や講習の中でいくども自分たちが師事したメキシコの助産師であるNaoli Vinaver氏とAngelina

Martinez Miranda氏に感謝を述べていました。またレボゾの歴史を必ず伝え、生徒に必ずメキシコの伝統的なレボゾ織り職人からレボゾを購入することを勧めて、現地のレボゾ織り職人の生活に貢献するようにしています。その姿勢は、真摯に女性や妊娠中の人をサポートすることを考え、自分たちができる限りの知識と技術を伝えたいという思いにあふれていました。私たちもその思いに共鳴し、出版に至りました。

レボゾの継承者であるメキシコと中南米の助産師やヒーラーの中でも、様々な意見があることが分かりました。私たちはレボゾに対しての様々な意見に耳を傾けていき、この神聖な伝統文化を尊重していきたいと思えます。この素晴らしい伝統文化を学ばせてもらった人はみんな、それがかけがえのない財産だと感じていますし、それを守り育てていくことのお手伝いができることに感謝し、そして嬉しいと思っています。

私たちはこれからも愛に包まれたお産をサポートするために、伝統を作り継承してくれた人々に最大限の敬意を払いながら、出産の歴史と文化の事を伝えていけたら幸いです。それを通じて更に深く出産を取り巻く環境を知り、それをはぐくんできた文化や人々に敬意を払えるようになることを希望します。

それを踏まえて、ドゥーラシップジャパンでは以下のように考えます：

- 1)レボゾの利用について、その歴史を知り、文化に敬意を払うことを常に呼びかけていきます。
- 2)レボゾの利用及び講習については、継続した対話の場や、様々な視点からの意見を聞いていく事が大切と考えます。

2021年3月

ドゥーラシップジャパン

代表理事 宇津澤紀子